中日農業科学技術協力 20 周年学術シンポジウム
挨拶

張陸彪　農業部国際合作司副司長

まず、中国農業部国際協力司を代表致しまして、この度のシンポジウムの成功に対し祝賀の意を申し上げますとともに、この度のシンポジウムにご列席を賜る中日両国の農業分野の専門家、業界代表者及び政府官僚に対し衷心より感謝の意を申し上げます。

中日両国の農業は従来持続可能な発展という理念を貫き、互恵・ウィンウィンの実現に向けた協力の共通点を前向きに模索してきました。長期にわたる協力・交流を経て、両国は農業科学技術研究、農業政策、模範普及及び農産品貿易などの分野において実り多い協力成果を収めてきました。20 年にも及んだ中国農業科学院と国際農林水産業研究センターとの交流・協力は、中日両国の農業科学技術協力の展開・実施の代表的な模範ともなりました。

中国は農業生産大国である一方、我が国の農業の急速な発展にともない、肥料や農薬などの農業化学品の投入量が年々増えつつあり、養殖量と規模も拡大しつつあります。その結果、農業の非点源汚染など一連の農業環境問題が発生しています。農業投入物の利用率を如何に向上させるか、栽培・養殖の廃棄物の処理技術を如何にレベルアップさせるか、環境にやさしい農業の発展モードを如何に構築するか、といった課題に向け、社会や人民大衆が強い関心を寄せています。ここ数年、中国政府はエコ文明建設と農業のグリーン発展をめぐり、一連の政策文書を公表し、一連の重大な措置を講じるようになりました。そして、農業のグリーン発展「五大行動」を実行するとともに、農業供給側の構造的改革の進行につれてそれを深く推進しています。農業の発展モードの急速転換は農業の非点源汚染の対応に途絶えることのない原動力を提供しています。そのため、当面の資源・環境課題に直面する中、私たちは農業科学技術に関する協力をより一層緊密なものとし、効率的な処理技術とモードの普及・応用を加速させ、的の射た提案を提出し、中日両国ないし世界の農業環境処理に向け技術的支援と政策を提供するように望んでおります。

農産品貿易は国際農業交流の重要の形であり、各国の農業経済発展の尽きることのない原動力でもあります。改革開放以来、特に WTO に加盟した後、中国の農業の対外開放が持続的に拡大し、海外向けの農業貿易も急速な発展を成し遂げました。グローバル化が進む中、中日両国間の農産品貿易の発展は両国の経済貿易の関係に新たな原動力を注ぎました。食料の供給関係をめぐり、中日両国は農産品の質・安全の確保を前提に、農産品の加工技術を向上させ、農産品の産業チェーンを拡充し、農産品の付加価値を高めることにより、それぞれの農産品の国際的競争力を強める必要があると存じております。

現代農業科学技術の発展が日進月歩であり、ビッグデータ技術、スマート農業技術、遺伝子工学などの技術が農業分野の研究に浸透し、レベルの高い学際的な研究がすでに主流になりました。当面の農業重要課題に関し、ご列席の専門家の皆様が学際的かつ開かれた交流と協力を行い、中日の農業発展に向けて提言することが求められています。

最後となりまして、本シンポジウムの成功と実り多い成果を収められますようお祈り申し上げまして、私の挨拶とさせていただきました。ありがとうございました。